

第1回 備前市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和元年6月25日（金） 16：00～

2 場 所 備前市市民センター 4階 第1会議室

3 出席者

(1) 構成員 田原 隆雄 市長

奥田 泰彦 教育長

高橋千亜紀 教育委員

松本 友見 教育委員

永島 英夫 教育委員

立花 朗 教育委員

(2) 事務局 佐藤 行弘 市長公室長

岩崎 和久 企画課長

吉田 祐介 企画係長

(3) 関係者 田原 義大 教育部長

大岩 伸喜 教育部次長兼教育振興課長

朝倉 健 学校教育課長

波多野靖成 幼児教育課長

横山 裕昭 文化振興課長

竹林 幸作 社会教育課長

4 協議事項

(1) 図書館機能の整備充実について

(2) 夜間学び直し事業（夜間中学）について

5 議事内容

○事務局（佐藤室長） 傍聴の方にお知らせいたします。

本日の会議は、冒頭から傍聴が認められております。ただし、写真撮影は冒頭のみという事で、会議中の撮影、録音はご遠慮いただきたいと思います。ご希望があれば、ただいまから議事に入るまでの間、写真撮影を認めますので、必要な方はこの時間でお願いいたします。

なお、本日の資料は協議後に公表いたしますので配付はそれまでいたしませんので、ご

了承ください。

それでは、定刻になりましたので、ただいまから備前市総合教育会議を開催いたします。

本日はお忙しいところ、会議にご出席いただきありがとうございます。

私は、本日の司会進行をさせていただきます事務局長の佐藤でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、開会に当たりまして田原市長よりご挨拶をいただきたいと思ひます。

○田原市長 本日は、総合教育会議を招集いたしましたところ、教育長を初め教育委員の皆様方に出席いただき、ありがとうございます。平素から備前市の教育の振興のために充実のためにご尽力をいただいておりますことにつきまして改めてお礼を申し上げたいと思ひます。

今回は新しい立花教育委員さんをお迎えすることができました。よろしく願いいたします。

さて、教育会議の趣旨については十分ご承知のことと思ひますが、市長部局と教育委員会が十分に意思疎通をいたしまして、地域の教育の課題やあるべき姿について議論をいただく場と、こういうことでございます。今後とも全ては子どもたちのためという大きな命題の中でいろいろご議論いただければと、このように思っております。

本日は、図書館と夜間中学についての議題といたしております。この2件につきまして慎重なご協議をよろしくお願いをいたしまして、開会のご挨拶とさせていただきます。よろしく願ひします。

○事務局（佐藤室長） 続きまして、教育長からご挨拶をいただきたいと思ひます。

○奥田教育長 教育委員の皆様には、教育委員会に引き続いての会議ということでお世話になります。会議を開くに当たりまして、事務局の皆様方に大変お世話になりまして、感謝申し上げます。

この総合教育会議、昨年度は教育大綱の改正という大きなことを市長部局と教育委員会が協議しました。市長部局の意見を反映させるための仕組みがこの総合教育会議によってできたということで、本当に教育委員会としても心強く思っております。総合教育会議は、市長が教育行政に対する思いを伝える場というふうに解釈できますし、教育委員会の側とすれば、教育現場とか教育行政推進上の課題を市長にお伝えする場であるとも思ひます。

今日は、これまで懸案となっていた教育委員会の大きな課題である図書館機能の整備充実についてと夜間学び直し推進事業、いわゆる夜間中学校についてが協議の柱となっております。教育のまち備前ということでここ数年、教育予算のほうが確保されて、教育行政の推進に大きな本当に力になっております。今回、議題として取り上げている内容で、図書館機能の整備充実については、市民がどのような図書館を必要としているのか、市立図書館の役割は何か等、市民の意見の集約をこれからしていかなければいけません、これが本当に備前市にとって長年の課題だというふうに考えております。この課題に正面から向き合って、市長部局と教育委員会がしっかり検討できればというふうに考えておりますし、夜間学び直し事業につきましては、この事業が県の新規委託事業であります。東備地域では初めての試みとなります。備前市内外を含めて学び直しをしたいというニーズがどれだけあるのかというのは不透明でございますが、ニーズがある限り、それに応えていくのが行政の責務であろうというふうに考えております。

今後、数年先を見通して市民とか子供たちのために本当に必要なものは何か、どういう方向へ進むことがベストなのかということ等について協議していきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。最後までよろしくお願ひしたいと思っております。

○事務局（佐藤室長） ありがとうございます。

さて、本日の会議でございますが、令和元年度の初めての会議となります。新たに立花委員さんが就任されており、また人事異動による事務局の交代もでございます。一言ずつ自己紹介をお願いできればと思っております。

本日、配付しております名簿、1枚はぐっていただきますと名簿がついております。名簿順に従いまして一言ずつご挨拶をいただけたらと思っております。

それでは、お名前をお呼びしますので、一言ご紹介をいただければと思っております。

まずは、田原市長。

○田原市長 改めまして田原です。就任して2年が経過しました。後半戦になりました。これからも経験を生かして頑張りたいと思っております。よろしくお願ひします。

○事務局（佐藤室長） 続きまして、奥田教育長。

○奥田教育長 教育長の奥田と申します。よろしくお願ひしたいと思っております。就任後2年目を迎えております。議会の仕組みであるとか、行政の仕組みもちよっとずつわかるようになってきましたので、これから市民、子供たちのために一生懸命やりたいと思っております。

で、よろしく申し上げます。

○事務局（佐藤室長）　続きまして、高橋教育委員。

○高橋教育委員　教育委員8年目を迎えました。残り1年頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいいたします。

○事務局（佐藤室長）　続きまして、松本委員。

○松本教育委員　教育委員3年目、知行合一で始めた教育委員の仕事だったんですが、3年目で折り返しになりますので、ますます頑張らなければと思っております。よろしくお願いいいたします。

○事務局（佐藤室長）　続きまして永島委員。

○永島教育委員　三石に住んでおります永島と申します。去年、教育委員になりまして2年目になっております。よろしく申し上げます。

○事務局（佐藤室長）　続きまして、立花委員。

○立花教育委員　新しく教育委員にならせていただきました。まだ1年目で何も本当にわかりません。ただ、備前市のために教育のために頑張りたいと思います。よろしくお願いいいたします。

○事務局（佐藤室長）　改めまして、事務局長の佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。

○事務局（岩崎課長）　事務局次長の岩崎と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。

○事務局（吉田係長）　事務局の吉田です。よろしく申し上げます。

○田原教育部長　教育部長の田原です。よろしく申し上げます。

○大岩教育部次長兼教育振興課長　教育振興課長の大岩です。よろしくお願いいいたします。

○朝倉学校教育課長　学校教育課長の朝倉です。よろしく申し上げます。

○波多野幼児教育課長　幼児教育課長の波多野です。よろしく申し上げます。

○横山文化振興課長　文化振興課長の横山です。よろしくお願いいいたします。

○竹林社会教育課長　社会教育課長の竹林です。よろしく申し上げます。

○事務局（佐藤室長）　出席者及び関係者のご紹介は以上でございます。

それでは、この後の進行につきましては、運営要領の第3条に基づきまして総合教育会議の議長であります市長にお願いいいたします。

○田原市長 それでは、早速1番目の協議事項である図書館機能の充実整備についての審議に入らせていただきます。

事務局から説明をお願いします。

○田原教育部長 私のほうから図書館の整備、機能充実ということで説明をさせていただきます。

現在、市の教育委員会では備前市の図書館のあり方について検討しておりまして、本年度中に図書館の整備基本構想の策定を目指しております。昨年は図書館利用者に向けてのアンケートを実施いたしました。本年度は市民意識調査と同時に市民アンケートとして市民意見を聴取してまいりたいと思っております。

詳細につきましては、担当課長のほうから説明させますので、よろしくをお願いします。

○竹林社会教育課長 それでは、お手元に配付しております資料に沿って簡単にご説明をさせていただきます。

まず1番、策定委員会についてでございますけれども、図書館整備基本構想策定委員会ということで、平成29年に規程のほうを設置しております。昨年度、若干規程のほうを変更をさせていただきます、12月に第1回基本構想策定委員会のほうを開催しております。

委員につきましては、教育長、市長公室長、教育部長、企画課長、社会教育課長の計5名となっております。

昨年度の経過でございますけれども、10月に図書館司書との意見交換を実施しております。また、10月から11月にかけて図書館利用者を対象とした利用実態のアンケートを実施しております。12月に入りまして、先ほども申し上げました基本構想策定委員会第1回目を開催いたしております。

今年度でございますけれども、5月31日、策定委員会の2回目の会議のほうを開催しております。この中で議題でもありましたアンケート調査につきまして、現在実施中がございます市民意識調査とあわせて図書館についてのアンケート調査も実施しております。こちらにつきましては、市民の方1,500名を対象に現在実施中となっております。

以後、策定委員会の開催と同時に、また教育委員会議への報告、庁議、議会への報告等を経て、今年度中に構想のほうを策定していきたいと考えております。

以上でございます。

○田原市長 事務局からの説明が終わりました。

ここからは協議ということですので、ご意見、質問等、自由にお願ひできたらと思ひますが、いかがでしょうか。

どうぞ。

○松本教育委員 以前、図書館利用者アンケートていうのをくまなく見ていて、いろいろ細かくハード面、ソフト面両方から見るとすごく細かい意見があるんですけど、私が備前に来て15年とかになるんですけど、以前こちらの図書館に寄せていただいて、これないなと思ひていろんな図書館に行くことが多かったんですけど、もう今で言うと、7市4町と連携で借りたりができることも、津山も今年からですか、津山の図書館のも借りれる、で、ここで返せるっていうことになったのと、以前からAKBって、上郡、赤穂の図書館なんかも自由に何か借りれることを考えると、36公立図書館が連携していることになっていて、300万冊以上の図書を借りようと思えば気軽に借りれるような状態に今あることがすごく便利になっているんです。

それに関して、あと必要なこととしたらレファレンスで、どういう情報が共有というか、こんな本があそこにあるよみたいなレファレンス共有みたいなことがもっと活発化されれば、本の数に関してはすごくマニアックな本とかになるとあれなんですけど、恐らく市民の方は、そんなのよりは今からは暮らしに役立つ本ですとか、そういうのとか人気ベストセラーみたいなのか、図書館に話題になる本とか、恐らくそういった本を望まれると思ひるので、その辺のことで本が余らないと聞くから余り利用しないとか、でもそもそも利用してない方に来てもらうぐらいの気持ちで考えると、いかに自分の生活とか暮らしとか産業であるとか、そういう備前市にかかわることとか、そういうことに関することの充実がやっぱり一番にしないといけないのではないかなというふうに思ひています。

○田原市長 ありがとうございます。

ほかにございませんか。

はい、どうぞ。

○奥田教育長 今に関連して、もっともなご意見だろうと思ひます。図書館といえば、学校図書館は子供が使うもので、市立の公立の図書館いうのは子供だけじゃなくて、大人自身も使うのでいろんな図書館の機能を生かしていかなければいけないと思ひます。今の近隣の立派な図書館でも貸し借りができるようになったということは、本当に言われたように本の種類とか数とかいえば、もう自分が必要なこんなことを調べたいとか、こういう情報を得たいとかになれば、この図書館になくても近隣へちょっと顔を出すとか、この

図書館でネットで検索してもらおうとかいうことで借りれるということで、非常に貸し出しの状況としてはよくなっています。

図書館について、日頃、来てない人に来てもらうようにするという事は、逆に言うたらどういふ本が、どういふものがあつたら来てもらうかということをお考えたときに、私、矢掛の図書館へ行ったことがあるんです。土日にはしか行かないんですが、矢掛は。いっばいです。何をみているかといつたら、幼児も来て、寝そべつて読んでいますけど、一番多いのは高齢者で、高齢者が雑誌とか新聞、雑誌なんかはかなりそろつている。新聞もかなりの新聞があつて、それを奪い合うようにして読んでいふような状況があります。だから、なかなか雑誌なんか毎月買つたり、新聞をとつたりするのはできませんから、あそこの図書館へ行けばそういうものを満たしてくれるといふようなことで、平素図書館を利用しない人にも利用してもらふようにするためには、そういうものも充実させる必要があるかなといふふうなことを思つたりしました。それから備前市の公立図書館といつたら、備前焼であるとか、それからレンガの歴史であるとか、そういう備前市独自の備前市の特徴いふんか、そういうものを調べるために資料が充実していると、よそにはないぞといふようなあたりのことも備えておく必要があるのではないかなといふふうなことは、今松本委員の話をお聞きながらちよつと思つました。

それから、図書館を利用していふことで、仕事に関係ある情報なら、仕事を豊かにできるし、主婦層で暮らしについて何かこんなことを知りたいといふのは準備していれば、そういう暮らしを豊かにすることにもつながるといふことで、いろいろなことをそういうアンケート調査で本当に何を必要としているのかといふのを調べるといふことで、アンケート調査もこの6月、意識調査とあわせてさせてもらふといふことで、これも明らかになるのではないかなといふふうにお思つています。

○田原市長 ありがとうございます。

ほかに。

どうぞ。

○高橋教育委員 先ほど教育長の話にありましたけど、まず図書館に行くといふ、そういう機会を多くくださつたらとてもいいかなと思つます。

まず、学生でよくテレビなんかをみても、子供たちは図書館で勉強するとか、そういう話題がすごく出るんですけど、実際自分たちが地元でいて、図書館で勉強するといふ場所が余りぴんどこないといふことは、よく子供たちが言つてたんです。気軽に行け

て、幅広い年齢層の方が共有して勉強できる場、空間の場、それから子供たちも図書室に行って勉強、まして集中力を高める、そういうふうな場も私たちはあったらとても魅力的な場所で、やっぱりコミュニティーの場所でもあり、また集中力もあって自分の知識を深める、そういう場で、憩いの場ではないんですけど、ゆっくり時間を本を手にとって勉強あるいは読書、そういうものができる場があればとても魅力的だなと思います。

○田原市長 ありがとうございます。

ほかに。

どうぞ。

○永島教育委員 まず、ちょっとアンケート等で市民のニーズをまだ捉え切れてないのかなとは思いますが、一応この基本構想の策定に向けて、他市町村のような生涯学習の拠点、知の拠点としての図書館の建設ということを目指していくと、目指していくのかどうか。まだ、そこら辺の結論はもちろん出てないとは思いますが、そこら辺を少し考え方を教えていただきたいなど。

それから、私も今日ちょっと時間があつたので、真面目ないうことで図書室へ早く、30分早く来て図書室を久しぶりに、私は三石ですので赤穂の図書館をよく利用するんですが、ああいう図書館と比較してもああいう図書館があるといいなど。しかし、市町村合併によって幅広い地域になっていますから、他の新図書館の様子を聞いても、広過ぎてなかなかもう、ちょっと様子を聞いてみると、利用者がほぼ減少傾向、いろんな情報が入りますので、時代ですから。それが固定化される。いろんな課題が出て、多くの市民が利用できてないと、いい図書館の割にはそういうような現状もあるので、そういったところも工夫しながら、先ほどから利用利用という言葉が出ていますが、市民のための図書館を、また負担軽減等が、あちらこちら話が飛ぶんですが、こういう場合は新建設もあるし、負担軽減の意味からも現在の図書室を環境整備を3地区のをしていくのも方向性として考えられるのかなど。今のままではちょっと図書室、図書館というふうにはなかなか言えないので、今の図書館を何とか整備をして、変わった備前市なりの新図書館と言われるような、3つの連携等も踏まえてやっていただければなということですよ。

○田原市長 ありがとうございます。

教育委員さんからのお話があつたんですけども、策定委員のメンバー、なにかありますか。途中経過なり。

○事務局（佐藤室長） 途中経過は、今最初に……。

○田原市長 あれぐらい。

○事務局（佐藤室長） した程度です。

○田原市長 先ほどの意見の中で、気になったことということは、いろいろな図書館が今情報提供があつて、あれ借りるのは、言うたらどういふような形でよその図書館から来るんですか。

○奥田教育長 県立図書館については取り寄せてくれます。

○松本教育委員 県立図書館は取り寄せしてくれるんですよ。ほかの図書館はふらつと行って借りてきて、返すのは返せるんです。

○田原市長 返すのは返せますわな。

○奥田教育長 ここへ返す。

○松本教育委員 瀬戸内とか岡山なんか、借りれなかったんだけど、以前。

○奥田教育長 だから、そこの赤磐とか瀬戸内の市民じゃないけれど、そこの図書館に行けば、市民と同じように借りれる。

○田原市長 借りれるようになったけども、そこから送ってくださいいふわけにはいかないのでしょう。

○奥田教育長 やっぱり現地に行かにゃいけん。

○田原市長 現地では借りれる。県立では。

○奥田教育長 県立はもう送ってくれます。

○田原市長 送ってくれる。

○奥田教育長 はい。

○松本教育委員 やっぱりすごく好きな方は、もともと県立図書館に行かれたりする方が多いようなことをアンケートからも見ているとそうなりますし、好きな人はやっぱり割と求めて行く。私なんかもそうなんですけど、古書とか求めて行ってしまう。だから、そういう感じで、意外と吉永なんか行くと、吉永は独特な本があつて、日生へ行くと日生の本があつて、何かこの中でもおもしろかったりするんで、だからやはりどうなんだろうなつて。1つ大きなざっくりした図書館があるつていふのだったら、これからやっぱり高齢化すると、車で乗りつけてつていふことよりも、近くに要るのかなと、その辺を含めるとハード面もすごく難しく感じます。

○田原市長 そうですね。中央図書館、市の、そうした場合に、じゃあ分館をどうするかという問題もありますわね。そういう中で、先ほど特色のあるつていふ表現もあつたかも

しれません。

それから、教育長さんの話で、寝そべってやれたという、そういうスペースも要るのかなという。

○奥田教育長 畳を敷いてね。ありましたね。

○高橋教育委員 小さい子がいると、クッションとかそういうものはあって、そういうスペース。

○田原市長 まず、それではニーズをしっかりと把握してということによろしいんでしょうか、今日のまとめは。

どうぞ、はい。

○松本教育委員 でも、今の世の中、本当に好みとか、ニーズに沿おうとするとすごく細分化してしまって、平均っていうのがやっぱり何もかもですけど、平均値は極めて少ない感じになるので、こっちをとるか、こっちをとるかっていう感じになってしまうことが多いかとは思いますが。

○高橋教育委員 でも、本館とその分館、その情報が常に今は見れるような状況には割とやりやすいので、それで回していただけると。やっぱり分館は絶対必要だと思うので、地域拠点拠点が。そういうことも考えながら。

○松本教育委員 巡回もあれもいいですよ。

○田原市長 データは全部共有しとんですよ。じゃあ、探して市内の分館とのやりとりはできるわけね。

○松本教育委員 そうですね。

○田原市長 巡回図書の人気はどんなんですか。

○松本教育委員 あれも取り寄せで、これを持ってきてくださいっていうのもできますね、巡回図書。

○高橋教育委員 何となく何度か行くと、その好みとか、求めているのをご理解していただき、割とそういうそちらの本をニーズに合わせて、それこそちょっとその幅を、そういうことは聞いてますね、はい。

○田原市長 勉強不足なんだけど、巡回図書、あれは誰が運転して、どういうことでやっとなかな。

○竹林社会教育課長 自動車文庫。

○田原市長 うん。

○竹林社会教育課長 毎月、月末に巡回のほうをやっております。大体日生方面、吉永、三石なんかのほうですね。蔵書数としては、今自動車文庫は1万2,600ほど用意して巡回させていただいております。

○田原市長 あのの中にそれだけ詰め込んどるわけ。

○竹林社会教育課長 そうですね。

○田原市長 で、予約があれば持っていくということ。

○横山文化振興課長 要望は聞いて届けます。

○田原市長 それは誰が運転して、誰がどう行くかということ。

○竹林社会教育課長 うちの公民館の職員が兼務でしておりますので、日によっては回っていているところですよ。

○松本教育委員 司書の方もついていくんですよ。司書の方が。

○田原市長 もついていくん。

○松本教育委員 だから、こんな本とか聞いたりしたりできるんですよ。その人の、例えば何々作家のやつが好きとかということ、次のときにやっぱり持ってきてくださるので、何かすごくいいなあと思って、私もよくさせていただいてます。

○田原市長 月に1回はぐるっと回るわけ。幼稚園に行くとか、学校に行くとか、公民館に行くとか、それはどのような回り方をするわけ。

○竹林社会教育課長 それは月によっても指定の場所が決まってやっています。

○奥田教育長 学校には基本的に行かないよね。

○竹林社会教育課長 そうですね、学校は行かないです。

○奥田教育長 この間、学校訪問で東鶴山小学校へ行ったときに校長先生が言われようたのは、公民館に来るんです。昼休みに来たときには子供たちも自動車文庫に入って借りる子もいるという。あそこは近いですから。

○田原市長 ほかにご意見は。

何かまとめていくんかな、この会議は。意見を聞き放しでいいんかな。

○奥田教育長 まとめていきます。ご意見を聞いて、策定委員会のほうでまとめていきますから。

○田原市長 今日はこういういろいろな意見があったということだけでよろしいんですか。

○事務局（佐藤室長） 意見交換の場ということで今日のところは会議は、はい

。

○田原市長 ほかにございませんか。

○奥田教育長 それでは、あと1件。

○田原市長 はい、どうぞ。

○奥田教育長 今、ニーズをアンケートで調査するというふうに言いましたけど、ニーズをアンケートで調査して集約をしますよね。集約して、ほんなら備前市の公立図書館の役割とかサービス、こんな役割があつてこういうサービスをしてもらえるといいなというよ
うなんが出てきたときに、ここから永島委員が先ほど言われた、その役割とかサービスを新しい図書館で担うのか、それから今現存の図書館を改築改造して担うことができるのか
いうのが、これが難しい判断になるとこれから思います。

だから、その辺も、ニーズが出てきて、そういったことも集約して、備前市の公立図書館の役割とかサービスを、こういうことだろうなということを決めていった後の作業も大変だろうなというふうにはちょっと思っています。

○田原市長 はい、どうぞ。

○永島教育委員 なかなか今の図書館等は駐車場が、大体備前市どこも公共の施設、割合駐車場が狭いんで、そういったことを踏まえていくと、利用状況等勘案すると、駐車場、それからまた図書館も何か空間、もう少しいろんな他の市町村の大きな図書館にない何かを備前市の図書館だったら、もし大きい建物等、中央図書館を建設するとなれば、備前市の図書館にはこういうものがあるんだというものを何か策定委員会のほうで検討していただければなというふうな思いは、私の近隣の市民の思いはやっぱり中央図書館のいい、大きな図書館を建設してほしいと、市の誇れる、そういうニーズが高いのかなと、今のところ感じています。

以上です。

○田原市長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○田原市長 それじゃあ、ないようですので、この件についてはこれぐらいにして、2番目の夜間中学についてを議題といたします。

事務局から説明願います。

○田原教育部長 公民館等を活用した夜間学び直し推進事業ということで、教育委員会
準備を進めております。今6月議会で補正予算を計上して、実施に向け検討を行っている

ところがございます。

この夜間学び直し事業に関しましては、経緯としては、国が夜間中学校を各都道府県に少なくとも1校は設置するという方針を出しております。それを受けて岡山県のほうで中学校形式卒業者や不登校、義務教育を十分受けてない方等々、外国人労働者を対象にしたもの等について、学び直しのニーズを把握するために県の委託事業として実施するものです。

今回、備前市においては、日生中学校のほうで検討をいたしております。今回、備前市で計画をしているものは、卒業資格を得られるような正式な中学校ではございません。夜間、そういった卒業証書を受けれるようなものではないということです。

岡山県内では、聞いておりますのは、倉敷、津山市が委託を受けて同じように実施すると聞いております。

ちなみに、岡山市内では、民間の方が自主夜間中学校として月2回、土曜日の夜に開講しておられます。現在、そちらのほうでは生徒、ボランティアともに120名で実施していると聞いております。

備前市で計画している夜間中学校についての詳細については、担当課長のほうから説明をさせます。

○竹林社会教育課長 続いて、お手元にお配りの資料のほうに沿ってご説明させていただきます。

目的につきましては、先ほど部長のほうからお話があったような背景のもとに事業のほうを実施していきたいと考えております。

対象につきましては、義務教育未終了者、中学校形式卒業者と、また外国人労働者等を含めた者を対象と考えております。

内容としまして、教育委員会、企画課、関係者等で任意団体を組織の上、実施をしていきたいと考えております。また、岡山県の教育委員会が委託事業で実施しております事業に沿って実施を考えております。

具体的な実施方法につきましては、会場は先ほどもありました日生中学校の空き教室を利用していきたいと考えております。回数につきましては、月2回程度、土曜日または平日の夜間、今のところは午後6時半から21時程度を予定しております。

内容につきましては、日本人の対象につきましては、学習内容は小・中学校レベルの学習内容、また外国人さんにつきましては、日本語から基礎レベルの国語、算数等を予定して

おります。

現在、6月補正予算で審議をしていただいております。こちらのほうが通りましたら、受講生募集のほうを始めさせていただいて、開講を9月ごろということで考えております。

講師につきましては、市民等からの有償ボランティアを中心に詰めていきたいと考えております。

予算計上額ですが、歳入予算としまして、県の委託金100万円、また歳出予算としまして、委託料100万円、こちらの中身につきましては、指導者の報酬、教材費、通信運搬費、保険代等を予定しております。

以上でございます。

○田原市長 ありがとうございます。

委員の皆さんからご質問、ご意見があれば、どうぞ。

はい、どうぞ。

○永島教育委員 人権擁護委員しょうるからじゃないんですが、人はやっぱり誰でも幸せに生きていく権利があるとか、人は一生涯学び続けて幸せな生活を送ることが人権の視点からいっても、この事業については大賛成であるということです。

ただ、対象者の確保であるとか、特に人材、講師等のあたりで課題も、これから取り組むには課題もあるのかなというふうに思っています。

この事業が充実した形で推進できることを願っているという意見です。

以上です。

○田原市長 ありがとうございます。

そこで、関連の質問ですけど、講師を市民等からとか、市内NPO関係と、こういう市民、市内と、これに限定しとんだけども、市外からは除外してるわけ。

○竹林社会教育課長 いえ、そういうわけではございません。

○田原市長 そういうわけじゃあない。これだったら、そういうふうに読めるんだけど。

○竹林社会教育課長 実施に際しましては、市内外から広く募りたいと思います。

○田原市長 特に最初やからね、かなり間口を広げてなかったら、今、永島先生おっしゃられたように、ちょっと心配するんだけど。生徒もそうやし、その指導者のほうもその辺はよく検討しておいてください。

ほかにございませんか。

それで、募集は7月の広報に準備ができたん。ストップしとるん。

○竹林社会教育課長 議決が明日ということで、公報の配布も明日ですので、7月はちょっと……。

○田原市長 できんのかな。

○竹林社会教育課長 難しいということで、8月の折り込みチラシ、それから……。

○田原市長 ああ、8月。

○竹林社会教育課長 7月中はホームページ等での募集もかけていきたいと思います。

○田原市長 そう。

はい、どうぞ。

○松本教育委員 教育部長がおっしゃっていた教育機会確保法っていうので、各都道府県に夜間中学を置くっていう分で動き出したあれで、初めのころ、私が中学校の形式卒業者は受け入れないとか、外国人はだめとか、そういうところから始まって、今拡大していて、不登校とかの方がすごく増えているっていうこと、不登校で一応卒業しているんだけどっていう方を受け入れをやる、それを積極的にやるとすごく活発になったっていう感じのことも新聞かなんかで読んだんですけども、やはりこの対象に限っては今受け入れ対象がすごくレベル差っていうのがすごくある状態だと思うので、そこでもしかしたらもう中学校に本当行ってなくても家で勉強したりとかする機会に恵まれている方もいらっしゃるのかするので、備前の場合は公立の片上高校があったりするので、それで何かこの子はもうこの辺でいったら片上高校とかにつなげればいいなとかっていうような、うまく振り分けというか、そういう何か関連したようなことを積極的に行っていたら、きっとボランティアといっても多分いろんなレベルを教えるようなことになるかなっていうのがあるんで、すごくその辺が心配とするところで思ったんですが。

○田原市長 どうぞ。

○奥田教育長 今言われたように、受講生ですね、レベル差は、それはまだ募集してないから、募集に来た、私は小学校の3年生ぐらいのレベルから勉強したいという方もいらっしゃるかもしれませんが、もうちょっと中学校レベルと、もうレベル差がそれはもちろんあると思います。

ほんで、こちらの予定としては、事前に面接をさせていただいて、受講者応募があればどの辺のレベルから行くかという、だから一斉に、例えば10人受講者が来たとしても、一斉の授業にはならないと思います。レベルに合わせた形でスタートしなければ、無理や

りレベルをそろえるということは多分できないと思いますので、レベル差に対応した指導者の確保というのも大事になってくると思いますけれど、指導者も教員OBが一番いいと思うんですけど、OBだけではなくて、いわゆる高校生、大学生も指導者になり得る、教えた経験がなくても、小学校低学年のことだったら教えられるというようなことで、そういったことでも確保していきたいですし、それからそういった学び直しを終えた人たち、自分は中学校は形式的には卒業しているけれど、中学校レベルの勉強が十分できてないけれど、この学び直しの場合である程度勉強にも意欲が湧いてきて、もう一個、1段上の段階へ行きたいということになれば、片上高校への進学も視野に入れて進めてくというような形もとれるんじゃないかなというふうに思います。

今、その受講者の対象という話が出ていますけれど、義務教育を終えてない、戦後のどさくさで、この方はまず多分いらっしやらない、いらっしやらないというか、応募してこれないんじゃないかなというふうに思います。一番多いのは、中学校の卒業証書はもらっているけれど、実際に不登校で中学校へほとんど通っていない、もう一回中学校のことを勉強したいわ、それから小学校のころから不登校であれば、小学校のこのあたりからもう一回勉強し直したいというような子をこちらとしてはターゲットにしたい。

それから、日生に国際交流センターができて、外国人労働者も相談できるような体制ができたので、そういった外国人労働者の方について、日常の英会話ができるレベルの方がいらっしやるかもしれんし、全然できないと、そのレベルもちょっとまちまちだと思うんですが、そういった方を対象に自分はこういう日常会話はできるので、こういったことについて学習したいというような、これも含めてやっていきたいと思います。

今、これは備前市が今しようとしているのは、中学校の正式な卒業資格を得るような学校ではありませんので、国が求めているのは、公立の夜間中学校として卒業資格を取れるようなのを各都道府県に1つ以上は置きなさいということで、あちこちで全国的には今できています。できているところは、今私の情報では外国人の方が半数以上というのは、多いということらしいんですが、備前市の実態というか、こういったニーズがあるのか、これからですので、レベル差に応じた指導はしていきたい、基本的にはそういうことは思っています。

○田原市長 はい、どうぞ。

○松本教育委員 数年前に伊里のほうでシニアの方がふれあい学級みたいなので、英語とかは余り勉強してないからって言って、中学校の勉強、英語の授業に出たりをされていた

んですよ。何か中学校の英語の授業だけ出るっていうのをされていて、それも何かシニアの学び直しみたいなので上がっていたと思うんです、たしか県の報告みたいなので。

○奥田教育長 中学校の授業の中に入る。

○松本教育委員 中学校の授業の中に入るみたいなことを。

○田原市長 学校教育課長、何か情報ありませんか。

○朝倉学校教育課長 10年ぐらい前ですか。

○松本教育委員 そうそう、多分そう。

○奥田教育長 うん、そうそう、昔だったと思う。

○朝倉学校教育課長 ボランティアもしていただきながら一緒に学ぶということは。

○松本教育委員 だから、シニアのそういう方に関しては、言えばそういう感じのこともできたりするから。

○田原市長 そういうニーズもあるかもしれませんね。

ほかに。

本件については具体的にとにかく9月からスタートということなんで、早急に体制づくりをして頑張ってくださいということでよろしいですか。

○奥田教育長 もうビラはできてますので。

○田原市長 そうですか。

○奥田教育長 はい、ビラはできてます。

今日、課長持ってきてない、ビラは。

○竹林社会教育課長 今日はちょっと。

○奥田教育長 そういうのを活用して、報道等も活用して広報していきたいと思います。

○松本教育委員 講師の先生の確保が一番ね。

○高橋教育委員 だんだん増えそうですね。初めはあれだけど、きっとね、だんだん。

○田原市長 そやから、岡山の自主夜間中学も最初は5人ぐらいからスタートしたようです。

○奥田教育長 今はすごい数ですよ。

○田原市長 それでは、予定しておりました議題はそれぐらいで、その他の項に入りませぬ。

何か事務局からありますか。

○事務局（岩崎課長） よろしいですか。

○田原市長 どうぞ。

○事務局（岩崎課長） それでは、国際交流事業につきましてご報告させていただきたいと思えます。

資料として、一番最後におつけさせていただいております令和元年度国際交流事業についてということです。

まず、今年の国際交流事業につきましては、受け入れ事業といたしまして、韓国蔚山広域市東区の受け入れを7月26日から29日の予定で、団員を13名、それと引率者が6名、それに対しまして備前市側がホストファミリー7名でお迎えするという形で行ってきたいと思っております。

次に2番目、派遣事業でございますが、オーストラリアのクレア&ギルバートバレー町の派遣につきましては、8月1日から10日の予定であります。行くのは16名で、もう既に派遣する中高生の方は決まっております。引率は4名で行っております。今回の応募につきましては、オーストラリアは26名の方の応募がありまして、そのうち16名を選出させていただいたということになります。

続いて、アメリカ、メンロパークにつきましては、8月21日から27日、10名の参加で、引率者は3名というところ。アメリカにつきましては、応募数が10名で、選出も10名という形になっております。

続きまして、裏面をごらんいただきたいと思えます。

今年初めてなんですけど、備前市メンロパーク訪問団という形で、市長、議長、国際交流協会会長によります正式な訪問団を派遣したいと考えております。今回につきましては、アメリカのメンロパーク市との交流が5年目を迎えるということになります。そして、今までにもこのメンロパークから市長が来日されて、またメンロパーク市議会の議員さんにも来日していただいております。そういった経緯からも一度はそういった正式に返礼の意味も含めまして訪問するのが筋だろうというところから、今回初めて訪問団を結成させていただいております。

行程表といたしましては、8月19日から23日までの5日間です。その中で行程表の中で主に行かせていただくのは、サンフランシスコ総領事、こちらのほうはこのメンロパークとの友好協定を結ぶ上で大変お世話になったということでありまして、表敬訪問させていただくというところ、ジェトロのサンフランシスコ事務所につきましては、そのサンフランシスコの状況でありましたというところの情報提供をいただくというよう

なことでの訪問をさせていただきたいと思っています。そして、メンロパークの市議会におきましては、火曜日の夜に議会を開かれております。そこへの登壇も予定させていただいて、そこでスピーチをさせていただけるというような方向で今進めております。そういたしまして、21日には日本から正式な中学生の訪問団がサンフランシスコに到着いたします。それを市長、議長、国際交流協会会長でサンフランシスコでお迎えするという、激励会をするというような形、そういった行程で進めさせていただきたいと思っています。

以上が今年度の国際交流事業の概略ということでお知らせをいたします。

○田原市長 ありがとうございます。

何か本件について質問、ご意見ございませんか。

なければ、私から聞かせてもらいます。

オーストラリアが26名の応募があつて16名を選んだ、この選び方はどのような方法で選ばれたのか。

○事務局（岩崎課長） まず、派遣事業でありますので、それを相互に受け入れをする年と派遣する年があります。昨年度に受け入れしていただいたご家庭の生徒たちを優先的に先に選んでおります。そして、それ以外の方につきましては、国際交流協会の中で抽せんで行いました。

○田原市長 それは国際交流協会の人抽せんして選んだ。

○事務局（岩崎課長） はい、そうです。

○田原市長 アメリカは応募が10名、中学生いうたら、しんどいかな。その辺はどんなかな。

○奥田教育長 やはりオーストラリアのほうが中学生、高校生という枠が広いので応募しやすいのかなというふうに思っております。

ただ、アメリカにつきましてもなかなか相手さんの来られる生徒たちとの兼ね合いがあります、受け入れ先との兼ね合いがありますので、一遍にアメリカも高校生まで上げるといふわけにはなかなか行きづらいということがありますので。

○田原市長 わかりました。

何かありませんか。

なければ、もう一件、私から。

受け入れ事業の蔚山市から受け入れですけども、ALTとか、ああいう人たちはこういうところには参加しにくいかもしれんですけど、ボランティアで出るのとは別に関係ないん

でしょう。

○奥田教育長 契約はどうなっとん。

○朝倉学校教育課長 ALTは一応そういう国際交流事業には活用できるようになって
います。

○田原市長 ことになったん。

○朝倉学校教育課長 してますので、事前にお話をいただいたら相談はできると思いま
す。

○田原市長 せっかくやから、よく通訳を兼ねて交流が言葉が通じるように何か工夫をし
てください。

なければ、これで協議事項を終わりたいと思います。

その他として、さっきのその他がこのその他かな。はい。

それでは、以上で教育会議を閉会とさせていただきます。どうもご苦労さまでした。